

【活動場所・日時】

8/6～8/17 チリ・カトリック大学

【活動概要】

本研究は、「懐かしい未来 -good old future-」という未来ビジョンの実現を支援するために、パターン・ランゲージという手法を用いるというものです。

私たち日本人にとっての「懐かしい未来」とは、現代ではもう忘れられつつある日本文化の古き良き手法を学び、そこから未来をつくる新しい発想を生み出していけるような社会のことを指しています。その日本文化の古き良き手法の中に受け継がれてきた魅力と合理性を、パターン・ランゲージというかたちで言語化していく活動をしています。

今回の活動では、チリのチリ・カトリック大学で開催された“Collaboration and Innovation Networks (COINs) 2013”というオープン・コラボレーションの学会に英語論文を投稿し、20 分間の口頭発表を成功させてきました。

【活動成果】

今回の国際学会において、狙いは二つありました。一つは、①本研究のような日本文化にとどまらず、それぞれの国や地域の人がパターン・ランゲージという手法を用いて自分たちの文化を記述できるという可能性を感じてもらうことでした。もう一つは、②海外の研究者から直接コメントやアドバイスをもらい、課題点を洗い出すことでした。

①

発表の手応えはあり、日本だけでなく他の国でも同じ様に古き良き手法を将来の未来に活かす必要性を感じたというコメントを頂き、主旨が伝わったと安心しました。

また、グローバル化が叫ばれる現代において、私たちのプロジェクトの視点を持つことが大前提として必要であるとのことご意見もいただき、将来の日本の社会を改革させるだけでなく、対外的な視点においても意味を見いだすことができました。

②

国際学会の場で発表する機会があったことで、英語で自分たちの活動をまとめ、説明し、海外の方からのコメントを頂けたことは非常に大きな意味がありました。

そして今回、いろんな国や興味範囲の方がいらしゃった中で、特に発表について熱心にコメン

トをくださり興味を持ってくださったのが、日本に来たことのある方々でした。日本に来たことのある方は、日本の独特な文化について肌で感じており、それを言語化し、将来の日本に活かすことについて大きな賛同を示してくれました。そこが大きな自信になったと同時に、私たちは、日本に来たことが無い人や日本のことを知らない人にも、日本的な手法やその合理性を理解してもらうためにもっと努力する必要があると考えさせられました。

また、この日本的手法を、パターン・ランゲージを使って言語化しようとしていることに関しても、もっと納得してもらえる説明の内容や見せ方があると反省があるので、その点についてもプロジェクト内で再考したいと考えています。

#### 【今後の活動】

今後、さらに現在作成中のパターンを加筆修正して完成させたいと考えています。11 月末に行われる ORF(SFC OPEN RESEARCH FORUM)にも発表予定です。さらに将来には、完成させたパターン・ランゲージをどう使うかも考え、ワークショップやイベントなども考えています。